



別海町立中春別中学校



学校だより

令和2年10月1日発行 校長 岩崎 撰也

自分の世界を広げるとのこと

校長 岩崎 撰也

9月15日から18日までの3泊4日、3年生は修学旅行に出かけておりました。当初の予定では5月実施、札幌方面をメインに考えておりましたが、コロナウィルスの影響を考慮して実施時期を9月にずらし、また若干コロナウィルス感染者が見られる札幌方面をルートから外して実施しました。札幌での自由行動やファイターズ戦もなくなってしまいましたが、3年生の生徒たちはそのことに対して不平不満を言うこともなく、振り替えて用意した一つ一つのプログラムを思い切り楽しみ、また互いを思いやる行動が見られるなど、改めて生徒たちの素晴らしいところをたくさん感じる時間となりました。

この修学旅行の中で生徒たちはいろいろな「初めての体験」をしたと思いますが、特にオープンしたばかりのウポポイ～民族共生象徴空間でのプログラムは印象に残るものになったのではないかと思います。ウポポイでははじめに「将来の自分」を考えるワークショップ（参加型学習）を行いました。アイヌ民族の女性、スペインカタルーニャ地方出身で近代美術史を学んだ女性、長く旭山動物園の飼育員を務めた男性など、様々な経歴を持つウポポイスタッフの今の職業に至るまでの経験談を伺い、生徒たちが思い描く「将来の自分の姿」についてのアドバイスや応援する言葉をいただきました。

また20年前の噴火の傷跡をそのままに残してある有珠山遺構では5階建ての公営住宅を見ながらガイドをしてくれた女性の方が「この建物の4階に住んでいた」という話をしてくれました。建物の壁は何か流され、ぶつかった衝撃でえぐれており、5階建ての建物は溶岩が流入し4階建てのように見えました。自然の持つ圧倒的なエネルギーの前に人の営みがいかに無力かということを感じるとともに、この噴火では近隣住民の事前の避難行動により一人の犠牲者も出ていないというお話を伺い、改めて防災の意識を持つことの大切さを学ぶ機会となりました。心に感じるポイントは生徒一人ひとりそれぞれだと思いますが、自分が経験したことのないことをたくさん経験する中で心にいろいろなことを感じて、「自分の世界を広げる」3泊4日の修学旅行であったのではないかと思います。

ルートの変更に伴う費用の増加や3日目の宿泊地の急な変更など、今回の修学旅行では保護者の皆様にはご負担とご心配をおかけしました。ご理解、ご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

